



市民と市政のかけはし

Kenminkoron

1963(S.38)年創刊. 61周年

県民公論 第1091号

〒330-0074 浦和区北浦和5-1-6-302

TEL.048-762-7515 FAX.048-762-7623

kenminkoron@sea.plala.or.jp

さいたま市地方記者クラブ (市役所2階)

5年さいたま市議会12月定例会

清水勇人市長あいさつ



ラオス国との水道技術協力30年

■さいたまクリテリウムの成功

11月5日に、世界最高峰のサイクルロードレースの名を冠した「J:COM Presents 2023 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」が、昨年に引き続き開催されました。

同日には、「さいたまるしえ」や、「サイクルフェスタ」も開催され、多くの市民の皆様にお楽しみいただくとともに、「スポーツのまち さいたま」「自転車のまち さいたま」の魅力を内外に強く発信することができたと考えています。

共催者の立場から、厚く御礼を申し上げます。

■さいたま国際芸術祭

10月7日より開催してまいりました「さいたま国際芸術祭2023」も、残すところあと12日となりました。本芸術祭は、会期中も日々変化し、多様な体験が生み出される芸術祭をコンセプトとしています。一度ご来場いただいた方も、繰り返し足をお運びいただき、最終日まで芸術祭をお楽しみいただきたいと思っております。

■10区の個性を生かした街づくり

この秋には、各区で区民まつりが開催され、コロナ以来3年ぶりの開催となった昨年にも増して、多くの市民の方々に賑わいました。今年は区制施行20周年の記念事業として、特別な催しや演出も行われるなど、まさに10区それぞれの個性が感じられるイベントとなりました。市民の皆様にも、郷土の魅力と、地域の人と人との繋がりの強さを、改めて感じていただける機会になったかと思えます。わたしといたしましても、これまでの本市の歩みを振り返り、この20年が市民の皆様との協働によって、この「さいたま市」を作り上げてきた道のりであったことを、強く実感する機会となりました。

今後も10区の多様な個性を生かした魅力あるまちづくりを進めてまいります。

■国際協力事業の推進

本市が30年にわたり関係を築いてきた、ラオス人民民主共和国との水道分野における技術協力について、同国の主要な水道公社と結ぶ覚書の更新時期にあたることから、11月13日から5日間の日程で、江原議長とともに同国を訪問し、締結式典に臨みました。

ラオス国訪問中には、管路施工現場や浄水場の視察等により、これまでの成果を検証するとともに、首都ビエンチャン市の市長や公共事業運輸副大臣などと意見交換を実施しました。

本市は、JICAの事業を中心とした職員の派遣や研修員の受入などの技術協力を通じ、実に30年にわたり、同国における水道事業の発展に大きく貢献してまいりました。

安全で安定的な水の確保は、人々が衛生的な生活を送るうえで大変重要な課題であり、SDGsにおけるゴールの一つに位置付けられています。特に高い技術と運営ノウハウを持つ日本の水道事業に対する、途上国への技術支援の期待は高いものとなっています。

国際社会における本市の責任を果たすため、今後も積極的に国際協力事業を推進します。



■市プレゼンスを高める事業推進

本年1月から民間事業者を公募してきた、大宮駅西口の桜木駐車場用地の活用事業について、最終審査の結果、大和ハウス工業株式会社やJR東日本などから構成されるグループを優先交渉権者として決定いたしました。

本事業は、ヒト・モノ・情報など多様な資源が集まり交流することで新たな価値を創造していく「東日本の対流拠点」のコンセプトに基づき、その形成に資する機能の導入を、官民連携により実現するものです。

優先交渉権者による提案は、鉄道輸送を積極的に活用した東日本の各圏域との更なる連携強化や、鉄道博物館や大宮駅といった近隣の既存施設との連携など、鉄道のまちとして発展してきた大宮の歴史や文化を十分に理解し、発展させていくことが期待できる内容であると考えております。

今後も、「東日本の玄関口」である大宮、ひいてはさいたま市のプレゼンスをより一層高めていけるよう、事業を着実に進めてまいります。

(令和5年11月29日 市議会本会議場)



◆ラオス(ラオス人民民主共和国)は、東南アジアの中央に位置し、5か国に囲まれた海のない国です。

◆日本の本州と同じくらいの国土に約730万人の人々(約半数のラオ族を含む計50民族が暮らしています。

◆首都は「ビエンチャン」で白檀(ビャクダン)の都という意味です。

◆宗教は「仏教」。国中に大きな仏塔が立ち、街角には神仏の祠(ほこら)が祀られています。

毎朝、多くの修行僧が、花咲く町を托鉢に訪れ、人々は真心のお布施をするという美しい風景が見られます。

◆皇太子殿下(いまの天皇陛下)がラオスをご訪問された令和24(2012)年が、さいたま市との水道技術協力20周年にあたるのを記念、市内の街おこしNPOさいたま市民ネットが「さいたま市民ラオス友好協会」を設立、ラオス旅行・大使館訪問などで民間外交展開中。



ラオスフェスはこちらです↑